



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

生産

- 【資料名】 からはし、千歯扱
【年代・来歴】 製作は明治期
【寸法】 (からはし)径1cm、長さ41cm
(千歯扱)全幅52cm、全高54.2cm、刃幅32.1cm、刃長21.9cm、刃数23本
【材質】 (からはし)鉄製 (千歯扱)胴/木製、刃/鉄製
【保存状態】 概ね良好

【略説明】

脱穀(稲穂から籾をはずす)のための農具。「からはし」は二本の鉄箸の間に穂を挟みしごいて脱穀する。「千歯扱」は刃と刃の間に穂を挟みしごいて脱穀する。

「千歯扱」は江戸時代の元禄年間に考案されたとされているが、作業能率の高さ(「こきはし」の3倍)は、当時とすれば画期的な脱穀用具であった。「千歯扱」は足踏み動力による「足踏脱穀機」が普及する大正時代前半まで使用された。

(参考:岩手県農業科学博物館資料)

(からはし)



【注記】

資料の所蔵元である農業科学博物館は、岩手県立農業ふれあい公園の一角に所在している。「岩手の農業の過去・現在・未来を楽しく体感できる施設」を掲げ、「農業れきし館」では、江戸時代以降の農業、農村生活の移りかわりを知ることができる農機具、生活用具、馬産、人物などの展示が行われており、岩手の農業の歴史と人々の生活と文化を探ることができる。

同博物館では年4回の企画展示を実施しており、企画内容に応じた農具や民具などの展示も行っているほか、イベントなどで一部の農具を実動展示するなど、展示・収集品の積極的な活用を行っている。

(千歯扱)



- 【所蔵機関】 岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館
【住所】 岩手県北上市飯豊 3-110
【連絡先電話番号】 0197-68-3975
【所蔵先URL】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp2088/park/>
【閲覧】 応相談

開館時間：9時～16時30分(入館は16時まで)

休館日：毎週月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)

入館料：高校生以下無料、大学生140円、一般300円

(個人)